

「キリストの如く」

～自分にしてほしいこと～

ルカ 10 : 25 - 37

私達の考えの指標はいつもどこにあるでしょうか？損得が指標になっているなら、それは非常にもったいないことです。

■ ゴッホ (1853-1890 オランダ) …

「ひまわり」を描いた画家として有名ですね。彼は牧師の家で生まれ神学校へ行き伝道者になりました。非常に熱心な伝道者で、自分の生活のすべてを貧しい人に分け、困っている人に全財産をささげ、自分は掘っ建て小屋で生活をするような人でした。けれど、当時のキリスト教会は彼の行いを見て聖職者の品性を汚すとして除名してしまったのです。ひどい歴史です。彼はバプテスマのヨハネのように、良きサマリア人のように生きることを求めたのに権威によってそれが失われたのです。けれど、彼の姿を通して今では多くの伝道者達が彼の生き方に学ばなければならないことを感じさせられています。彼もまた一粒の麦だったのです。

■ 「形」ではなく…

パリサイ人は律法に書かれている「形」を非常に重んじていました。私達も「クリスチャンとは…」という形に目を捉われていくと神様が本当に願っておられることがわからなくなります。礼拝に来ることは大切なことです。けれど、来なければならないから来るものではありません。神様を愛しているから、そして自分の愚かさがわかるからそれを神様の前に改めに来るのです。

私達は生涯で 8,000 時間言葉を聞くと言われています。この膨大な時間の中で、人との対話、テレビから流れてくる言葉…etc 8割が破壊と否定と罵りの言葉で、自分で自分に語りかける言葉も 9割が否定的な言葉だそうです。自分がこの一週間の生活の中でどれだけ人を罵る言葉や傷つける言葉を直接言ったり、あるいは心の中で思ったかを知っているから、そしてそんな愚かな自分を愛して下さる神様を知っているから礼拝に来るのです。クリスチャンだから来ているのではなく、罪人だから来ているのです。そして、神様はこんな私達に「頭を下げて涙を流しながら来い！」とは言っていない。「さあ主の家で喜べ！」「感謝しつつ主の門に賛美しつつ主の大庭に入れ！」と招いておられるのです。

■ 何のために生きていますか？…

家族、子育て、仕事…すべてはイエス様の言われた「行って同じようにしなさい。」ということばをするためです。隣りで病む人があればその人を癒し助けるためです。元の道から大きく外れてしまった私達の人生。人を傷つけ苦しめてきた人生がイエス様の十字架の愛によって元の道へと方向が変わりました。そして元の道を目ざして戻ろうとしている過程の中で、多くの人が元の道とは違う方向に進んでいることに気づくのです。その人々に元の道を教えてあげる方法はただ「こっちだよ！」と言葉で言うだけのことではなく、その人が倒れているならばその人の手をとって伝えてあげるのです。そして起きられるように助け、支えてあげるのです。それが「行って同じようにしなさい。」と言われたイエス様のメッセージなのです。

■ ① 怨 (じょ) の心

「怨」は赦すという意味です。そして、その人の将来を思い、その人が進歩向上できるように忠義を尽くす生き方です。これはまさにキリストの生き方です。十字架です。教会は祈りがあり、その人がよくなることを願い、その願う心からその人に接するところです。だからこそ、人を裁くのではなく戒め、共に研ぎ合い、成長するところなのです。自分の愚かさを知っている私達だからこそ自分の愚かさと共にその人の愚かさを背負い合って進んでいくところなのです。

■ ② あなたにされたように

イエス様が自分に下さったように接するのです。今までは多くの方があなたにしたようにあなたも人になりました。やられたらやり返す生き方です。けれど、教会に来てキリストに出会ったあなたは違うはず。イエス様はあなたにどうかかわりましたか？神の家族を通してあなたにどのように触れたのでしょうか？私達は「されたように」接さなければなりません。「あなたの隣人をあなたのように愛せよ」。あなたにされたように愛するということです。教会の家族はあなたを愛しているからあなたにかかわったのです。それはもしかしたらあなたにとって嫌なことだったかもしれないし、嬉しいことであつたかもしれません。良いかもしれないし、悪いかもしれません。けれど、それはあなたを愛しているからしたのです。

■ ③ 正しい言葉を植える

アブラハム・リンカーンは大統領になった時、自分を今まで蹴落としてきた人を側近の大臣にしました。周りの他の側近はそれを非常に否定しました。ところが、リンカーンは「大切なことは彼が私をどう評価しているかではなく、私が彼をどう評価しているかである。」と答えました。リンカーンは彼は敵であつたけれど評価していたのです。最後二人は素晴らしい友になったそうです。私達の「見方」なのです。その人を駄目だと思い、そこから言葉を発していけばその人はどんどん駄目になっていきます。どんどん悪くなるのです。それが人間関係です。イエス様は私達に何と言いましたか？一度でも「お前は駄目だ！お前は嫌いだ！」と言われたのでしょうか？なぜ神様が私達にされないことを神様が愛しておられるその人にやってしまうのでしょうか。私達はその人のために祈らなければなりません。その人が戻るために私達がいるのです。苦しんでいるなら助け、弱っているなら起こし、支えてあげるのです。私達のこの姿を通してその人はイエス様の姿を見ることができるようになります。「心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」これは私達にできるのです。愛されたように愛する決断をしましょう！